

桃山中学校の宝物「オープンステージと彫刻」

宇部市立桃山中学校長 江 藤 弘 康

1 同窓会にて

6月に本校の同窓会に校長として招かれました。会場では、火野正平さんがNHKの番組で本校のオープンステージを訪れたときの様子が、スクリーンに映し出されていました。隣の同窓生の方が「オープンステージを見ると、先生に叱られて正座したり、演劇を披露したりしたこと思い出します。」と懐かしんでいました。別の同窓生の方は「学校の彫刻を私も作ったんですよ。もう古くなっているから、いつまで残せるかしらね。」と微笑みました。本校のオープンステージや彫刻が、同窓生に愛されていることを感じた同窓会でした。

2 オープンステージ

オープンステージは、昭和25年に作られ、入学式や文化祭で使われてきました。老朽化が進みましたが、寄付などのおかげで平成16年に改修できました。現在も学校行事などで使っており、昼休みは生徒の憩いの場となっています。オープンステージの詳細は、本研究集録「泉」第57集に寺本実春元校長が寄稿された「桃山中学校の象徴『オープンステージ』」で紹介されています。



オープンステージと彫刻

3 彫刻

宇部市は「緑と花と彫刻のまち」のキャッチフレーズのもと彫刻教育に力を入れています。本校でも生徒による彫塑で記念像を残すことが伝統となっていました。緑豊かな校内を巡ると多彩な彫刻に出会え、まるで「彫刻の森」にいるようです。中でも正面玄関近くの群像彫刻は圧巻です。これは昭和41年度の卒業記念制作として、当時の美術科教員（藤原文夫・木屋 健・戸野昭治郎）の指導のもと、10クラスあった3年生によって彫塑されました。（下の3画像）



青春の日々を象徴しているような人物を配した台座には、生徒が創作した詩が刻まれています。

「おいみんな見あげて見ろ 空は広くてでっかいぞ 悲しいときには空をながめ 嬉しいときには友をよび 怒ったときには自分を考え 迷っているときには力を合わせ 手を取り合って進むんだ 心を合わせて進むんだ。無限に広がる空を見て スクラム組んで進むんだ この学校をつくるため 平和な世界をつくるため 光があるかぎり。桃中のくいを打ちこむんだ。」

4 宝物として

オープンステージや彫刻には、制作や保存に携わってきた多くの思いが込められています。皆様の思いを受け継ぎ、「桃山中学校の宝物」として「地域の宝物」として末永く大切にし、人間教育に生かしていきたいと考えています。